

聖書のなかのおんなたち
詩晶集



小泉友美 KOIZUMI T



目次

はじめに	1
----------------	---

はじめに

聖書に登場してくる女性は、古代イスラエルの父権社会において法的な権利はほとんど与えられず、宗教的な権威の座につくことも許されなかった。この男性有位の社会で、男性親族保護なしには権利を尊重されにくい存在であったが、多くの女性が信仰を通して家庭や社会で有力な働きをした。なにかしらの重大な働きをする時（戦争、貧困、危機）カミに祈り、その祈りは「詩」として聖書に表現されている。この魂のうたを、独自に短歌風に（五五調/七七調）にアレンジして表現してゆきたい。

1) 「ハンナの祈り」サムエル記上 2,1-11

2) 「エステルの祈り」エステル記 ギリシア語 C,6-12

- 「詩篇 50」サムエル記下第 11 章
- 「サラの祈り」トビト記 3,11-15
- 「ユディトの祈り」ユディト記 9,1-14
- 「マニフィカ マリアの賛歌」ルカによる福音書 1,46-55
- マグダラのマリア

聖書のなかのおんなたち 詩晶

- 「ハンナの祈り」ハンナ (恵み)

エフライム人エルカナの妻で、後の預言者で土師（民族指導者）のサムエルの母である。長い間子宝に恵まれずに、夫エルカナのもう 1 人の妻ペニンナに悪く言われて悩んだ。

シロの聖所を参拝して、祈りを捧げて、もしカミが祈りに応じて男子を捧げてくださるのなら、その児をカミに捧げると誓い、祈りが通じてハンナは男子を産み、サムエルと命名された。サムエルが乳離れすると、ハンナはサムエルをシロの聖所に連れてゆき、カミに捧げ「感謝のうた」をうたった。

ハンナの祈り
主にあって
わがころは
喜びみちて
角高く
敵に対して
口開き
カミの御救い
喜び祝う
聖なる方は
主のみ
あなたと並ぶ
もの誰もなし
岩と頼みて
わたしたちのカミ
驕りあり
高ぶるままに
語らずに
思いあがりし
言葉なく
すべてを知りし
カミありて
ひとの行い
正されるまま
勇士の弓は
折れるままに
よろめく者を
力をおびる
食べ飽きし者
パンのために
雇われ
飢えている者
飢えることなく
子なきおんな
七人の子産み

はらむおんな
衰えるまま
主よ
命たち
命を与え
陰府くだり
引きあげられる
主は
貧しくて
また富ませ
低くして
また富ませ
弱き者
塵のなかから
立ちあがらせて
貧しき者は
芥より
高くあげられ
高貴な者と
とも座に着きて
栄光の座
嗣業として
お与えになる
大地あり
もろもろの柱
主のもの
主の世界を
上に据えられ
主の慈しみ
生きるもの
まもりゆく
逆らう者は
闇の沈黙
おとされるまま
力によって
勝つのではない
主は
逆らう者を
打ち砕き
雷鳴ありて

とどろきし
地の果てまで
裁きあり
力を与え
油を注ぐ

●「エステル」の祈り」 エステル

エステルは、旧約聖書の中の一書に出て来るペルシャ王の後となったユダヤ人女性である。ユダヤ人モルデカイカイの養女エステルは、ペルシャ王クセルクセスの後に選ばれる。知恵と機転で、ユダヤ人を皆殺しにする陰謀に、三日三晩、灰と芥で頭をおおって、女官とともに断食して祈りを捧げて打ち勝った。

王妃エステル
死の苦悩に
襲われて
主によりそう
華麗なる
衣服を脱ぎて
憂いあり
悲しみの衣
香りまといて
灰おおわれし
頭かな
身をいやしめて
みだれ髪

わが主よ
唯一なる方
あなたのほかに
助けなし
ただひとりきり
われを助けよ
危険あり
身近に迫る
生まれきて
先祖を選び
永久の遺産

主よ
今あなたは
罪人の
わたしたちを
敵の手へと
敵の神々
讃えよう
主よ
正しき方
奴隷として
苦しめても
飽きたらず
偶像の手に
置きし誓い
口から出でし
定めを廃し
民を滅ぼせ
讃える者の
口を閉ざして
神殿と
祭壇の
栄光を消し
諸国民の
口を開きて
神々を
讃えよ
王笏を
無にせずに
われらの滅び
嘲らせずに
計略を
敵みずからに
ふりかかせて
刃向かう者を
見せしめにせよ
思いおこして
この悩みあり
ご自身を
お示してください
神々を

支配する
王よ
勇気をわれに
お与えたまえ
獅子のまえ
雄弁なる
言葉語りて
そのころ
変えて我らに
戦い挑む
者を憎ませ
その仲間
ともに葬り
去ってください
御手をもち
救いたまえ
あなたのほかに
頼るものなし
ただひとりいる
救いたまえ
あなたはすべて
ご存じです
律法なき
人々の栄光
異邦人の
寝床を
忌み嫌いて
ハマンの宴に
あずからず
饗宴を
祝わずに
アブラハム
カミなる主よ
運命かわり
今に至りて
はしためは
あなたのほかに
よろこびはなし
すべての人に
力及ばず

主よ
希望失い
耳を傾け
恐れから
解き放ちたまえ

• 詩篇 50 バト シェバ (誓いの娘)

ヒッタイト人ウリヤの妻で、後にイスラエル王ダビデ王の愛人そして妻となり、ソロモン王の母となる。ダビデ王が王宮の屋上を散歩している時、水浴中のウリヤの妻バトシェバに目をとめて、関係を持ち妊娠させた。この姦淫の罪に、ダビデ王は罪悪感を覚えてこの詩篇 50 のうたをつくった。

カミよ
憐れみたまえ
御慈しみ
御憐れみ
もちたまえ
背きの罪を
ぬぐいたまえ
わたしの咎を
ことごとく
洗いたまえ
罪より
清めたまえ
あなたに背き
わたしの罪は
悪事とみられ
言われることは
正しく
あなたの裁きに
誤りはなし
咎のうちに
産みおとされて
母身ごもりし
罪のうちに
秘儀ではなく
まことを望み

知恵悟らせよ
ヒソプの枝で
罪をはらいて
清めたまえ
洗えたまえ
雪より白く
喜び祝う
声 聞かせよ
砕かれし
この骨踊り
よろこんで
御顔を向けず
咎 ことごとく
ぬぐいたまえ
カミよ
わが内に
清きところを
創造し
あたらしき霊
授けたまえ
御前から
退けず
聖なる霊を
とりあげず
御救いの
よろこびを
味わせて
自由の霊で
支えたまえ
あなたの道を
教えたまえ
救いのカミよ
流血の
わざわいから
救いたまえ
恵みの御業
舌喜び歌う
主よ
唇を
開きたまえ

この口は
あなたの賛美を
歌います

• 「サラの祈り」サラ (女王)

サラは旧約聖書の「トビト記」に出てくる女性で、両親とメディア地方に住んでいた。思慮深く、勇気があったが、悪霊に苛まされて不幸な境遇にあり、サラはこれまでに7人の男に嫁いだが初夜を過ごす前に、そのつど悪魔アスモダイが男を殺してしまった。このため、サラは女奴隷にさえ馬鹿にされた。「あなたが、御主人たちを殺したのです。あなたは7人の男に嫁ぎながら、どの方の名も名乗らなかったではありませんか。」サラは心に深い悲しみを覚えて涙を流し、父親の家の二階に上がって首をくくり自殺しようとして、祈った。カミはサラの祈りを聞き、天使ラファエロを地上に派遣し、トビトの息子トビアとサラが結婚できるようにはからった。

両掌を
広げて祈る
憐れみ
深きカミよ
あなたの御名を
永遠に讃えよ
万物が
とこしえに
ほめたたえます
あなたに向かい
顔を上げ
仰ぎ見る
この世から
解き放されて
はずかしめの
言葉
聞きながし
主よ
ご存じですか
清き身のわれ
補囚の地で
父の名を汚さず
たった一人の

娘であり
 父よりほかの
 後継ぎはなし
 また父には
 親戚もなし
 妻として
 迎えるべき
 七人の
 夫死にゆき
 生きながらえて
 なにになる
 わが命
 奪いたまえ
 主よ
 お聞きください

- 「ユディトの祈り」ユディト

ユディトは「ユディト記」に出てくる女性で、夫を日射病で亡くし寡婦となり、ベトリ
 ア町を救うために、地にひれ伏し、頭に灰をかぶり、粗布を身に纏い、エルサレムの神
 殿で夕べの香を焚き祈った。その後、着飾ってホロフェルネスの元に着飾って酒宴に出
 向いて、天幕の内に眠るホロフェルネスの首を短剣で切り落とした。ユディトは、105 歳
 の長寿をまっとうした。

ユディトは
 地にひれ伏して
 灰かぶり
 夕べの香に
 祈りささげよ
 シメオンの
 カミなる主よ
 シメオンの手に
 剣をわたし
 異邦人に
 報復し
 おとめの胎を
 開きて汚し
 辱め

胎を犯して
 非難のまことに
 してはならぬと
 命じられ
 主は
 指導者たちを
 殺戮し
 あざむきて
 赤面し
 朱の血に
 王座にすわる
 諸侯をうつ
 妻たちを
 略奪し
 愛する民は
 熱く燃え

- 「マニフィカ マリアの賛歌」聖母マリア

聖母マリアは救世主イエスキリストの母。ヨアキムとアンナの娘とされている。「新約聖書」(ルカによる福音書 1,46-55) で唯一女性が歌った賛歌がこの「マニフィカ」(我が心、主を崇め)である。妊娠した従姉妹のエリザベスを訪問し、挨拶して祝福した時の聖母マリアの歌である。

わが魂は
 主をあがめ
 わが霊は
 救い主の
 カミを讃えよ
 はしために
 目を留めて
 くださる方
 今から後
 いつの世にも
 わたしは
 幸いな者
 御名は導く
 その憐れみは
 代々限りなく

主を畏れて
 その腕で
 力を振るい
 権力者を
 ひきおろし
 身分低き者を
 高くあげ
 飢えし者を
 良きもので満たし
 留める者を
 空腹のまま
 追いかえす
 そのしもべ
 イスラエルを
 受け入れて
 憐れみを
 忘れない
 アブラハムと
 その子孫に
 とこしえに

- マグダラのマリア

マグダラのマリアは、罪深き女、悪魔に取り憑かれた女性、南フランスのマルセイユの
 民間信仰のマグダラのマリアは、改心した輝くばかりの美女の隠遁者と様々な表情があ
 るが、個人的にインスピレーションされた詩をここに紹介したい。

快樂の果て
 なんと嘆きて
 疲れはてるまま
 恐るべき
 その美しさ
 詩よありて
 長き時
 虚栄に
 へつらいて
 罪の恥
 美德の名誉

ともに
海岸で謳おう
マグダラのマリア
長き髪に
こころ残りて
キリストの
足元に
接吻し
嘆くままに
香油の壺を
開きて
華やかな香りに満ちて
キリストの足元を
涙と香油でぬぐい
聖なる愛で
キリストを讃えよ
マグダラのマリア
聴くこと
敬愛すること
キリストを愛して
その燃えるような
愛に
焦がされるまま
ため息つきて
地獄へと
おりてゆく
キリストの愛
愛によって
この自由
愛の恩恵を
得るかな
あまたの人々へ

完

2025 年 6 月 14 日 フランス アンジェ

聖書のなかのおんなたち 詩晶集

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
